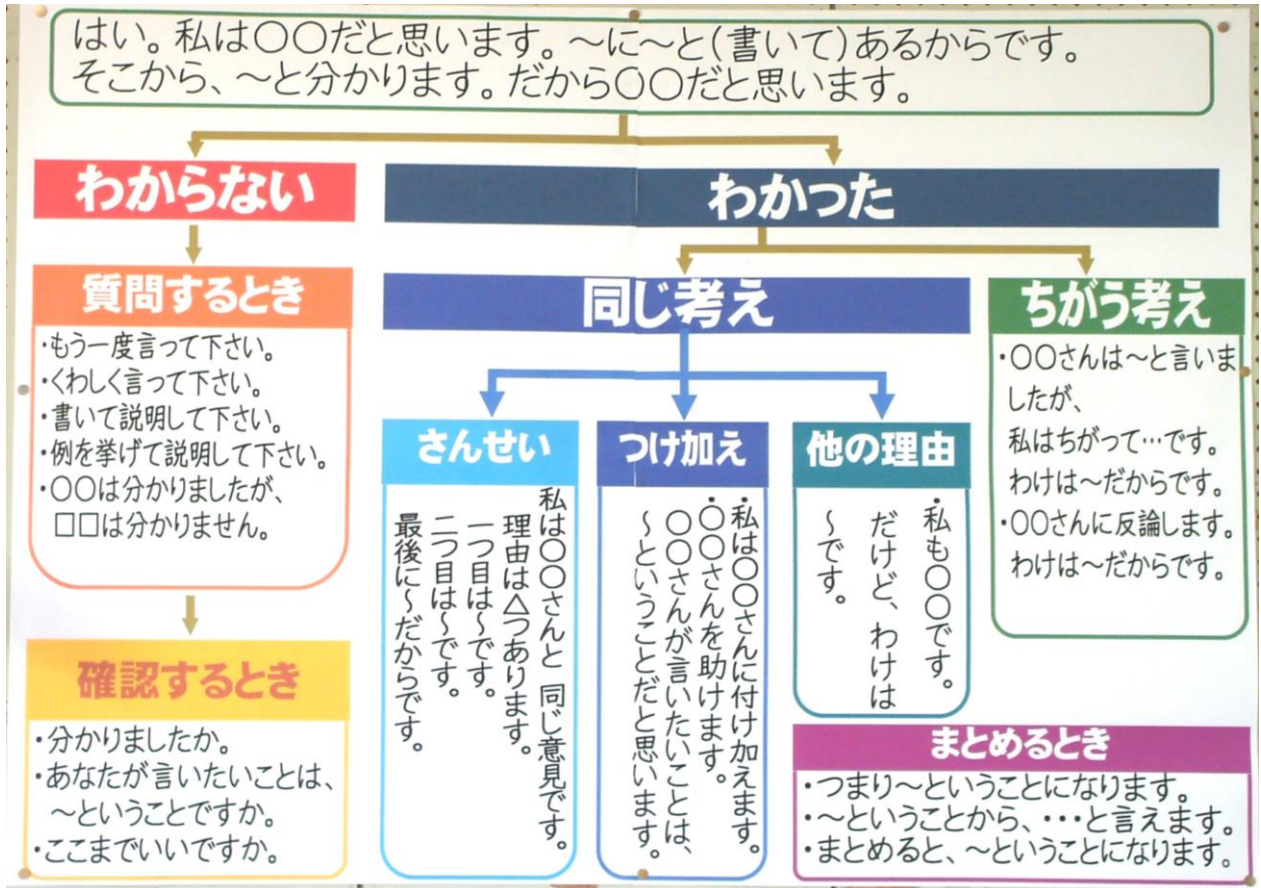


4 言語活動を支える言語技能の向上を図る取組

(1) 話し合いの仕方（意見の聞き方と述べ方）

児童が学び合いをするためには、考え—根拠—理由（付け）という基本的な発言だけでは難しい。学び合いにおいて重要なのは、友達の発表を聞いて、その考えと自分の考えがどうつながるのかを考えるとこころだといえる。それには、聞き手側の力も高まらなければならない。そこで本校では、友達の発言を聞いてよく考えるための手立てとして、「話し合いの仕方」を作成して教室前面に掲示した。



これは高学年における話し合いの仕方である。児童がこのような話し合いの仕方を身に付けることで、それぞれの考えの違いやつながりが明らかになり、納得したり新たな発見をしたりする学び合いへとつながっていく。そこで、どの教科でもこの話し合いの仕方を身に付けるように取り組んでいった。

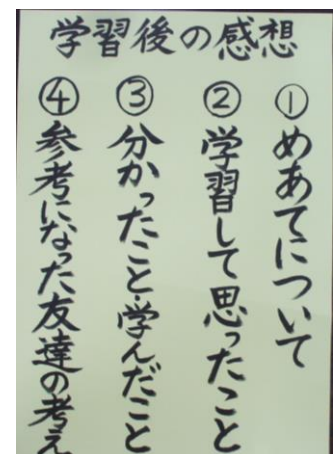
(2) 感想の書き方

学び合いによって自分の考えの深まりや広がりにつかせるためには、感想の書き方が重要である。そのため、感想に書く内容を設定して書かせた。内容については、学年に応じた段階を設けている。

【感想の内容】（高学年の例）

- めあてについて
- 学習して思ったこと
- 分かったこと、学んだこと
- 参考になった友達の考え

このようなことを書くことで、友達の考え方や話し方にも児童の目が向くようになった。



【高学年の例】

5 言語環境の整備

(1) 読書活動の充実

○ 単元を貫く言語活動との関連を図る学校図書館の充実

国語科の学習において、学校図書館の充実は大きな影響を及ぼす。そこで本校では、「単元を貫く言語活動との関連を図るための児童の視点に立った図書館」と「教師の視点に立った図書館」の2つの側面から充実に取り組んだ。



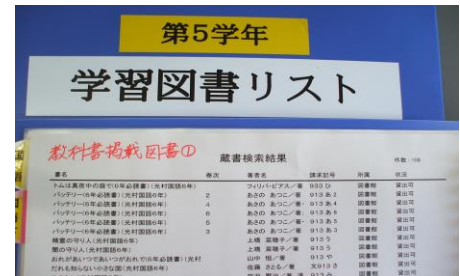
ア 児童の視点に立った図書館の充実

- ・本の配置が分かる図書館マップの作成
- ・並行読書等のためのコーナー設置
- ・新聞記事や自分たちの作品展示コーナー
- ・必読書と多読コンクール

これらによって、平成23年度の年間貸し出し冊数は50048冊（一人あたりの貸し出し冊数73冊）で、平成24年度の年間貸し出し冊数は56246冊（一人あたりの貸し出し冊数81冊）となり、読書量は確実に増加傾向にある。

イ 教師の視点に立った図書館の充実

- ・パソコンによる蔵書の検索
- ・各教科等に必要なブックリストの作成
- ・調べ学習のための資料コーナーの設置
- ・国語の教科書に出てくる蔵書の充実



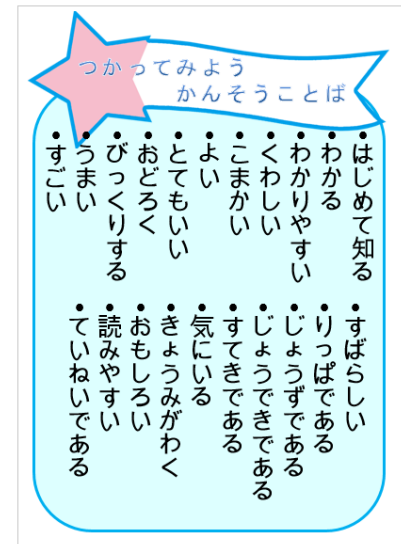
これらによって、並行読書や調べ学習などをより円滑に行うことができるようになった。

(2) 児童に働きかける掲示

ア 語彙表の活用

児童が、自分の考えや気持ちを伝えるときにいろいろな言葉を使えるほうが、自分の思いをうまく表現したり、友達との違いを感じ取ったりすることができる。そのため、その学年でぜひ児童に身に付けさせたい言葉の語彙表を作成し、児童の目にふれるように掲示した。その学年で身に付けさせたい言葉としては、国語の教科書の巻末に示された言葉を取り上げた。

また、それとは別に、それぞれの学習で身に付けさせたり使わせたりしたい言葉については、新たな語彙表を作成し、獲得させていった。右の資料は低学年の感想を書くときに使わせたい言葉の一覧表である。



イ 漢字の木、言葉の広場

語彙表のほかに児童に働きかける掲示として漢字の木、言葉の広場がある。漢字の木は、当該学年の新出漢字の読み方や仲間わけができるようにして掲示している。言葉の広場は、ことわざや今月の詩などを、学年に応じて分かりやすく掲示し、児童の漢字や言葉に対する興味・関心が高まるようにしている。

